

# 学校飼育動物ネットワーク事業

—子どもたちと動物とのよりよい関係づくり—



## 豊かな心をはぐくむ学校における動物飼育

現在、徳島県内の多くの幼稚園・小学校で動物が飼育されています。子どもたちは、動物とふれあうことにより、命を大切にする心をはぐくんでいくことができます。

本県では、平成16年度から、社団法人徳島県獣医師会の協力により、県内公立幼稚園及び小学校の指定園・校において、担当獣医師による年間2回程度の飼育相談、診断・治療が行われています。

平成23年度は、4幼稚園、3小学校において、本事業を実施しました。

地域の獣医師や徳島県動物愛護管理センター、保健所等との連携により、専門的な指導の下に適正な飼育管理に努め、望ましい動物飼育を推進しましょう。

平成24年3月

徳島県立総合教育センター



## 指定園・校の取組の紹介



昨今、幼児児童の成長期に動物を飼育する家庭が少なくなり、小さいころから、動物とふれあい、動物の命を大切にする心情をはぐくむ機会が少なくなってきました。

学校における動物飼育は、命の大切さ、思いやりの心などの情操教育に効果的であり、幼児児童の健全な育成に役立つと言われていいます。しかしながら、鳥インフルエンザ等の影響から、動物を飼育する学校や学校における飼育動物が減少しており、子どもたちが動物と十分なふれあいができなくなっているのも現状です。

そこで、「学校飼育動物ネットワーク事業」の各指定園・校では、生命のあるものを大切に、思いやりの心をはぐくみ、自他の生命を尊重する心の育成を図るため、徳島県獣医師会と連携し、「飼育管理・相談」「診断・治療」「動物とのふれあい活動」の充実を図り、実践してきました。各園・校の取組を紹介します。

## 徳島市応神小学校

### 飼育管理・相談



抱き方を中心に雌雄の見分け方、世話の仕方などを子どもたちが質問し、獣医師に答えてもらった。

### 成果



抱くことを怖がっていた子どもたちも、自信をもって楽しく世話ができるようになった。

ウサギの心音を一人一人聴かせてもらう場面では、子どもたちは小さな命を大切に思い、命のあたたかさを感じる時間になった。



## 鳴門市成稔幼稚園

### 飼育管理・相談



毎日子どもたちと共につけている飼育日誌(ウサギノート)を見てもらいながら、ウサギの観察を行った。



それはね…

教えて  
教えて!



ウサギノート  
(飼育日誌)

### 成果

サークルを利用したウサギとのふれあい方やウサギの目線にたった環境づくりが大切であることを教わった。また、子どもたちが以前より生き物の命を身近に感じることができ、そこから、子どもたちなりに命の大切さを理解するきっかけになった。

## 阿南市立宝田幼稚園

### 飼育管理・相談



飼育日誌の記録



冬の北風・風雨の対策

ウサギの体の特徴やよりよい飼育環境を子どもたちに分かりやすく教えてもらった。

### 成果



飼育日誌のモデルを活用しながら、日々の飼育の引き継ぎや健康状態の変化を記録していくようにした。また、冬の北風・風雨の対策時には網窓をビニールシートで覆うことにした。夏は風通しや除湿に留意するなど、季節によって飼育環境の改善を心掛けるようになった。



## 徳島市国府小学校

### 診断・治療



飼育小屋を見てもらったり、健康診断をしてもらったりして、具体的な指導を受けることができました。また、抱き方を教わり、心音を聴かせてもらった。

### 成果

バスタオルに包んで膝の上で抱くことでウサギが安心することや、冬は寒さ対策のため藁を敷くとよいこと等を教わった。子どもたちにとって、ウサギがより身近になり、以前にもましてかわいさを感じることができた。「分からないときや不安なときは、いつでも連絡ください」と話してもらい、安心して飼育を続けることができています。

## 吉野川市立学島幼稚園

### 診断・治療

飼育動物の糞を採取して、健康状態をチェックしてもらい、「異常なし」という結果が出て安心した。また、鳥インフルエンザが流行する前に、クジャク・インコへの適切な対応をしてもらった。



ふわふわだよ



### 成果

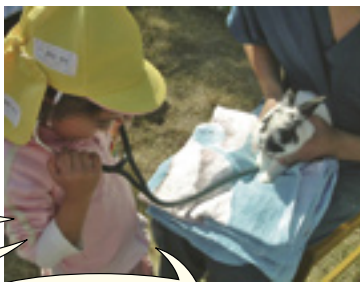


身近に相談できる獣医師がいるということで、園としても安心して動物飼育に取り組むことができた。また、子どもたちも安心して、動物に触れたりエサをやったりすることができている。

## 徳島市立新町幼稚園

### 動物とのふれあい活動

聴診器でウサギの心音を聴かせてもらった。



心臓の音速いな

ふわふわして気持ちいい

体があたたかい

### 成果



生活の中で、ウサギの喜ぶ抱き方を考えたり、積極的に世話をしたりして、これまでより親しみをもって接することができるようになった。マスクをつけたり、手洗いをしたりするなど、衛生面にも気をつけるようになった。



## 松茂町立喜来小学校

### 動物とのふれあい活動



ウサギの体重測定、爪切りの後、正しい抱き方を教えてもらったり、ウサギの心音を聴かせてもらったりした。



飼育委員会の子どもたちが、日ごろ疑問に思っていることを質問した。

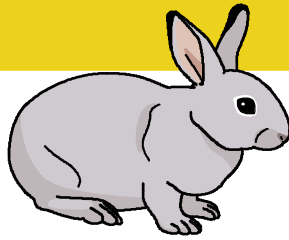


### 成果

この活動で初めてウサギに触れた子どももあり、全員がウサギを身近に感じる事ができた。子どもたちは、正しい飼育方法やウサギの特性、健康チェックについても知ることができ、以前より自信をもって飼育に取り組めるようになった。

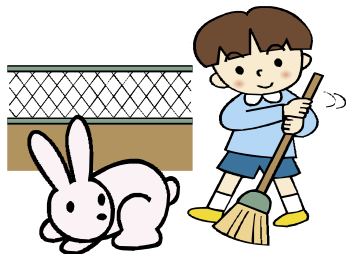
# 学校における望ましい動物飼育の方法

## ウサギ



### ○飼い方

- ・夏は湿気がこもらず、冬は日当たりがよく、床がよく乾燥する場所で飼う。
- ・土に穴を掘るので、脱走に注意する。
- ・飼育数をむやみに増やさないためにも、雄と雌を別々に飼育するか、動物病院で不妊手術をしておく。
- ・歯が伸び続けるので、口の周りがよだれで汚れている時やエサが食べにくそうな時は、動物病院を受診する。



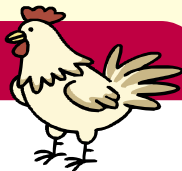
### ○エサ

- ・給食の残りや野草でまかなっていることが多く見られるが、量の不足や栄養の偏りが見られるので、市販のウサギ用飼料を与えるようにするとよい。
- ・ネギ類、ショウガ類など刺激の強いものは与えてはいけない。
- ・1回のエサの量は、1羽につきウサギ用飼料100グラム、野菜はエサ入れのカップに山盛り一杯で、朝夕2回、大体1時間で食べ終わる量を目安とする。

### ○留意点

- ・まめに掃除をしてウサギの足を常に乾いた状態にしておく。
- ・ウサギは怖がりなので、抱く時は、座って抱くようにする。
- ・生まれた子ウサギには手を触れない。
- ・床中に糞が散らばっていたら、部屋の広さに対して数が多すぎる可能性が高いので、適当な飼育数にする。

## ニワトリ・チャボ



### ○飼い方

- ・夏涼しく、冬は日当たりのよい場所で飼う。
- ・野鳥が病気を運ぶことがあるので、網目を細かいものにする。
- ・つつかれて弱ったニワトリやチャボを見かけたら、速やかに隔離する。
- ・時々小屋から出して、日光に当てたり、散歩させたりするとよい。

### ○エサ

- ・市販のエサにきざんだ青菜を混ぜて、1日に2回新しいものと取り替える。
- ・水は毎日取り替え、容器もよく洗う。

### ○留意点

- ・顔を近づけると目をつつかれることがあるので、顔を近づけないこと。
- ・排泄物が乾燥すると飛散するので、掃除の時に少し水をまくとよい。
- ・エサや水入れの容器を屋外に放置しない。



## ハムスター



### ○飼い方

- ・快適温度が20~25℃なので、風通しのよい湿度の低い場所で飼う。
- ・木製の箱は簡単に食い破ってしまうので、側面が金網タイプのケージか水槽タイプのケージを使う。
- ・臆病で警戒心が強いので、ストレスがたまらないように、静かな場所で飼う。
- ・運動不足解消のため、まわし車をケージに備える方がよい。

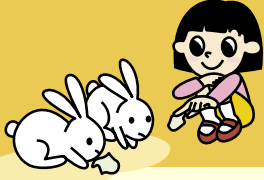
### ○エサ

- ・1日1回同じ時間に一定量のエサを与える。
- ・雑食性であるが、好き嫌いが激しい。粗食にも耐えるが、栄養のバランスがとれるような食べ物の与え方が大切である。市販のハムスターフードや野菜、野草、果物、種子・穀物、動物性食品等をバランスよく与えるように心掛ける。

### ○留意点

- ・週に一度は、ケージの大掃除をする。
- ・体質によっては、アレルギーによるショックを起こす例が報告されているので、噛まれないように注意する。





# 動物飼育に関するQ&A



**Q** 飼育活動を通して子どもたちはどのようなことを学ぶことができますか。

**A** 学校で、教育の一環として動物を継続的に飼育することの意義は、子どもたちに「命の大切さを実感させることができる」「責任感を育成できる」「社会性・協調性を育成できる」「優しさ、思いやり、忍耐力を育成できる」「心の癒しや人間関係改善の場となる」「動物に対する観察力、探究心を育成できる」ことにあります。

幼稚園教育要領や小学校学習指導要領の「生活科」「理科」「道徳」等にも、「学校飼育動物」及び「生命尊重」の指導に関わる内容が盛り込まれています。



**Q** アレルギーの子どもにはどのように対応すればよいですか。

**A** 動物に触れるとひどいアレルギーが出る場合は、直接のふれあいは避け、見学・観察にとどめ、エサ作りなどで飼育への参加をしてはどうでしょうか。なお、アレルギーの有無に関わらず、動物に触れた後は、必ず手洗いをするように心掛けてください。また、体調がすぐれないときも、動物とのふれあいは避けた方が安心です。



**Q** 動物が死んでしまったときはどうすればよいでしょうか。

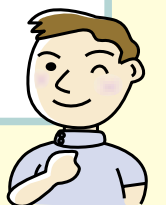
**A** ウサギ、ハムスター、チャボ、ニワトリなどの小さい動物の場合は、基本的に学校の敷地内での埋葬をお願いします。この場合、できるだけ深く埋めないと、小動物に掘り返されたり、また衛生上の問題も出てきたりします。感染症等の疑いがある場合には、獣医師に相談してください。

また、子どもたちにとって動物の「死」に直面することは、「生きる」ことや「命」について考える好機にもなるので、発達段階に応じた指導ができるよう、配慮してください。



**Q** 休日や長期休暇中の世話はどのようにすればよいですか。

**A** 各学校が地域の実情に照らし合わせて休日飼育を考える必要があります。「休日当番制」「持ち回り制」(小動物の場合、順番を決めて持ち帰る)「地域との協力」「教職員の当番制」などが考えられます。いずれの場合においても、教職員や保護者、地域の方と共通理解を図るとともに、動物と子どもの両者に対して適切に安全が確保されるよう、管理体制の整備が不可欠です。



**Q** 子どもたちが飼育日誌をつけるとき気をつけることはありますか。

**A** 子どもたちが当番制で飼育に当たる場合、動物の健康状態が把握できにくく、次の当番に申し送ることが必要な事項もあるので、飼育日誌をつけることをお勧めします。前日の健康状態や、今後気をつけておくことなどを記載して、連絡を密にすることが大切です。また、飼育日誌は、子どもたちが記録するものなので、記録のしやすさも重要です。「飼育動物日誌(例)」を総合教育センターホームページに掲載していますので、ご活用ください。

URL [http://www.tokushima-ec.ed.jp/study\\_appointment/doubutsu\\_nt/index.html](http://www.tokushima-ec.ed.jp/study_appointment/doubutsu_nt/index.html)



## 徳島県内での相談機関

### ◇ 南部総合県民局 保健福祉環境部（阿南・美波保健所）生活衛生担当

阿南庁舎	阿南市領家町野神319（TEL：0884-22-9872）
美波庁舎	海部郡美波町奥河内字弁才天17番地1（TEL：0884-74-7342）

### ◇ 西部総合県民局 保健福祉環境部（美馬・三好保健所）生活衛生担当

美馬庁舎	美馬市穴吹町穴吹字明連23（TEL：0883-52-1011）
三好庁舎	三好市池田町マチ2542番地4（TEL：0883-72-1121）

### ◇ 徳島県動物愛護管理センター

（動物ふれあい指導教室や  
小動物の飼い方に関する問い合わせ）



〒771-3201  
徳島県名西郡神山町阿野字長谷333  
(TEL：088-636-6122)  
(FAX：088-636-6123)



ゆう&あいは、徳島県動物愛護管理センターの  
マスコットキャラクターです。

## 指定園・校及び指定獣医師

市 町 村 教育委員会	指定園・校	指定獣医師
徳島市	新町幼稚園	清水 利生（アピスペットクリニック） 三谷 聡（あけぼの動物病院）
	国府小学校	富田 卓英（ペットの病院トミダ） 齋藤 慎也（さいとう動物病院）
	応神小学校	井出 直樹（ロビンス動物病院） 逢坂 朋男（逢坂獣医科病院）
鳴門市	成稔幼稚園	中川 忠重（中川アニマルクリニック） バルネケ・マミ（バルネケ動物病院）
阿南市	宝田幼稚園	土橋 賢治（土橋動物病院）
吉野川市	学島幼稚園	山口 直樹（やまぐち動物病院）
松茂町	喜来小学校	林 繁利（林獣医科病院） 大島 寛彰（おおしま動物病院）

○本事業は、平成16年度から、社団法人徳島県獣医師会の協力により実施しています。